
脱兎/沖神

いとり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脱兎／沖神

【Nコード】

N4113I

【作者名】

いとり

【あらすじ】

いつの日からか、度が過ぎる悪戯をするようになった沖田。私にとってそれは悲しいだけ…。

(前書き)

初めての人も、そうでない方も、こんにちは。いとりです。▽。ノ、

長編の合間にサラリ。と書いたので雑かもしれません。

そして、内容は微エロ（かも？）なので、苦手な方は今のうちにクリアボタンです↑

大丈夫ですか？
でわ、どうぞー。

「チャーイーナっ！」

そう呼ばれたとの同時に、肩にズシツとした重みが加わった。

―…ヤバい。捕まった。

喧嘩相手の沖田に、後ろから抱き締められている。

—…逃げなきゃ!!

「はッ…離せヨ!!この変態が!」

バタバタと必死に暴れるが、無意味な抵抗だった。

暴れる度に強くなる、彼の腕の力。

「嫌でさア。」

クスクスと耳元で笑い声が響く。

—…もお、ヤダ。

私の気持ちも知らないくせに、こんな事すんなよ。

いつの日からか沖田は、ちよっかいを出して、私の顔が真っ赤になるのを楽しむようになった。

体に傷を負わなくなったのは良いが、こんな事をされるのは精神的に辛い。

だって、私はお前のこと……。

不意に耳を弱く咬まれ、ビクンと反応した。

「————ッや！」

傘を持ち直して、沖田を振り払おうとした手を、容易く制止される。

「…大人しくしてろよ。」

耳元でささやかれ、固まってしまった。

掴まれた手を解けずにいる。

沖田が私の肩を掴み、私を自分と向き合わせる。

整っている沖田の顔が目の前にある。

口元は楽しそうに笑っていた。

—…駄目だ。

余計に悲しくなる…。

早く逃げよう

目をギュッと瞑って、腕に力を入れた。

「触ん……」

言葉が最後まで出なかった。

唇に押し当てられた温かいものが、言葉を遮った。

「……………ッ!!」

亜麻色の髪と淡い桃色の髪が混じり合う。

腰に回されるしっかりとした腕。

「…ッん…う…。」

まだ続く深い口付けに、隙間から声が漏れる。

ヤ ダ

腰がくだけ、しゃがみ込む私を沖田が追う。

息が出来ず苦しくなり、沖田の肩をドンドンと叩いた。

やっと離れた唇を、舌で舐められる。

「もう、降参ですかイ？」

ニヤリと笑う口元。

立ち上がり、自分を見下す彼。

苦しくて肩で息をする。

白く透き通る頬を伝う涙を拭った。

「…もう、嫌アル。酷いヨ。何でこんな事…ッ。」

―…これ以上、思い知らされたくない。

「それ、本気で言ってるんですかい？」

「……………」

私の前にしゃがみ込み、唇に手を当てられる。

「意味もなく、アンタにキスなんてしないでさア。」

「……じゃあ、どんな意味があるの？」

一番聞きたい事で、一番聞きたくない事。

だから私はあいつが答える前に逃げる。

私
は
脱
兎

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4113i/>

脱兎/沖神

2010年10月10日22時10分発行